

特定プログラム説明書

開設学部等名〔 教育本部 〕

プログラムの名称	(和文) Cross-cultural and Interdisciplinary Program (Liberal Arts)
	(英文) Cross-cultural and Interdisciplinary Program (Liberal Arts)
<p>1. 概要</p> <p>グローバル化の進展、英語を母語とする留学生の増加により、多様な文化的背景や価値観をもった学生が共に学ぶ機会が増えてきている。そこでは、幅広い外国語運用能力の育成だけでなく、様々な学問領域や専門知識および社会における多様性を外国語で学ぶことを通じて、異文化同士の架け橋となるコミュニケーション力の向上が重要となる。</p> <p>このような状況を踏まえて、教養教育の「領域科目」において英語で開講されている授業科目（E科目）の履修を通じ、大学入学時から「英語で学ぶ」意識・意欲を高めることを本プログラムの目的とする。これらの科目は留学生も受講するため、英語を媒介とした交流の一助になり、留学の準備としても効果的であるほか、以降の大学生活における多様な学びの動機付けになることが期待される。また、人文社会科学系科目群・自然科学系科目群の各科目を横断する「自主テーマ」を自ら設定することは、異なる複数の学問分野のアプローチを用いて思考することができる、いわば「文理複眼」的な思考力の涵養にも資するものである。これらの履修を通じて得た学びについては、その後のレビューミーティングにおいて発表を行い、他の受講者とのディスカッション等を通じてさらなる深化を図る。</p> <p>なお、本プログラムの履修により、英語による学びをさらに深めたい場合は、2年次以降においても「国際共創副専攻プログラム」の履修等により、学士課程教育全体にわたり「日本人学生と留学生がともに学ぶ」ことが可能である。</p>	
<p>2. 到達目標</p> <p>各学問領域の課題について理解する英語運用能力に加えて、受講者間のディスカッション等を英語で行うことで、積極的に交流を深めるコミュニケーション力を高める。とりわけ、多様な価値観を尊重した上で自分の意見を伝え（アサーション）、議論を深めることができる。</p>	
<p>3. 登録時期</p> <p>本プログラムは1年次に授業科目を履修するため、1年次第1タームの4月下旬～5月中旬に希望調査を行い、5月末に登録を行う。なお、2年次以降のプログラム登録申請については、1年次の履修状況を勘案して決定する。</p> <p>※希望調査の具体的な方法については、4月上旬にMyもみじ掲示板で確認すること。</p>	
<p>4. 登録要件</p> <p>特になし。ただし、本プログラムの趣旨に鑑み、総合科学部国際共創学科の学生は登録の対象としない。</p>	
<p>5. 受入上限数</p> <p>10名程度とする。希望者多数の場合は、志望動機等を基に登録者を決定する。</p>	
<p>6. 授業科目</p> <p>※授業科目は、別紙の履修表を参照すること。</p> <p>※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。</p>	

7. 修了要件

修了要件単位数 8単位

1年次 領域科目において、「自主テーマ」を設定した上で「人文社会科学系科目群」・「自然科学系科目群」からE科目を各4単位以上修得すること。ただし、使用言語が「B：日本語／英語」の科目を2単位まで修了要件に含めることができる。

修得した単位は、各学部の履修基準に基づき、教養教育科目（領域科目）の単位として卒業要件にも含まれる。

2年次 レビューミーティングに参加し、「自主テーマ」の履修を通じて得た学びについて発表すること。
※プログラムの改善に利用するため、1年次終了時及び卒業時にアンケートを実施する。

8. 責任体制

本プログラムは教養教育科目の単位修得を修了要件とすることから、教育本部全学教育統括部が主に企画・実施・改善を行う。

9. 既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

既修得単位の認定は行わない。

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

既修得単位の認定は行わない。

【特定プログラム履修に関する注意事項】

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した特定プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○特定プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

Cross-cultural and Interdisciplinary Program (Liberal Arts) 履修表

授業科目	開講期	履修区分	要修得 単位数	開設部局
領域科目「人文社会科学系科目群」のE科目 (※) <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 分類：哲学・倫理学・宗教学・芸術学 人類学・地理学・歴史学 文学・言語学 法学・政治学・社会学・経済学・教育学 心理学 </div>	1 年次 (1-4T)	選択必修	4	教育本部 (教養教育科目)
領域科目「自然科学系科目群」のE科目 (※) <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 分類：数学・情報学 自然環境・社会基盤 物理・天文・応用物理 化学 生物 健康科学・医学情報 </div>	1 年次 (1-4T)	選択必修	4	

(※) 領域科目 (計8単位) のうち、使用言語が「B：日本語／英語」の科目を2単位まで修了要件に含めることができる。

履修方法

(1) 1 年次：「自主テーマ」の学修 (領域科目)

このプログラムには、共通のテーマも必修科目もありません。各自で「自主テーマ」を設定し、領域科目のうちE科目の中から履修科目を選択してください。「自主テーマ」は途中で変更しても構いませんし、履修を進めながら (あるいは履修後に) 関連付けていく方法もあります。

なお、修得した単位は、各学部の履修基準に基づき、教養教育科目 (領域科目) の単位として卒業要件にも含まれます。

(例) 自主テーマ：Why is the declining birthrate a issue?

人文社会科学系科目群	Contemporary Economic Issues I
	Politics and Society in Europe
自然科学系科目群	Food and Life Science
	Human and Ecological Systems in Transition

(2) 2 年次：「学び」のまとめ (レビューミーティング)

このプログラムにおける学修の総括として、レビューミーティングを計画しています。

ミーティングでは、英語による「自主テーマ」の学修成果の発表やアカデミックライティングの演習等を通じて、自身の「学び」をアウトプットするスキルを身につけるとともに、以降の大学生活における「学び」への意識をさらに高めることを目的とします。